こくろうよなご

第１３号
２０２６年２月２５日
発行責任者　倉下文明
編　　集　教宣部

つくろう職場に労働運動を！　ひろげよう闘いを　職場に、地域に、全国に！

２１０００円の賃上げを！！

第９９回拡大地方委員会を開催

２月１１日、米子市文化ホールにて「第９９回拡大地方委員会」を開催、安全・安定輸送の確立、２６春闘勝利、ローカル線を守る闘い・当面する自治体選挙をはじめとした政治闘争の強化、組織拡大など、当面する闘いについて意思統一を行って来ました。

地方委員会は、藤江副委員長の司会ではじまり、島根県分会の藤原豊代議員が議長に選出されました。

倉下執行委員長の挨拶（別掲）に続き、来賓の皆様より激励のご挨拶を頂きました。

午後に入り、吾郷書記長が「当面する闘争方針（案）」について提案、８名の構成員より質疑を受けました。

業務部長・西日本本部から順次回答がされ、吾郷書記長の集約含めた「当面する闘争方針」について、全体の拍手で承認されました。

その後、村口執行委員が「地方委員会宣言」を読み上げ、最後に倉下委員長の「団結頑張ろう」で地方委員会を閉会してきました。

構成員発言要旨

●松村代議員（島根）

メンテックに出向中、人手不足と高齢化が進んでいる。ＪＲと比べてとても賃金が低い。保存休暇を持ち越しているが、使用制限もあるため使用できない。退職時にでも使える制度にして貰いたい。

●千葉代議員（鳥取）

根雨駅が３月一杯で巡回対応駅となる。マルスもなくなり、どうなるのかと思っている。利用者からも不安の声を聞く。異常時対応について危惧をしている。シニア社員の賃金を上げてもらいたい。特に一時金については、社員と同等の扱いにしてほしい。

●三浦代議員（島根）

浜田運転区４０名中、組合員は自分一人、米子運転区は国労はゼロ、本線筋の要求が出づらい。浜田でも一人で要求しても、他労組の中にはなかなか広がらない。益田駅到着後、特急列車の清掃と連結器のカバー装着をするが、本来運転士の仕事なのか。ドアの不具合があっても問題とならない。事故でもなければ何も改善されない。年休が取れていない社員が大勢いる。年休を出せないなら、買取なども考えるべきでは。シニア社員の賃金を引き上げてもらいたい。コロナ禍であった期末手当のカット分をどうにかして取り返してもらいたい。退職するまでには、返納されることを望む。

●大石組合員（島根）

統括駅になり、業務係長が出来たが、仕事を覚える気がない。上位職は下位職の仕事を知っておくべきだ。一般職がカバーしている。誰でも出来るという考え方を代えてもらいたい。給料の高い人が仕事をせず、低い人が一生懸命仕事をする。会社の対応も曖昧である。

益田駅の２～３番ホームの椅子が取られて、列車待ちの人が座れない。ホームの屋根も撤去された。あるものをわざわざ撤去するとは、お客様本位のサービスは何処に行ったのか。

●石田分会代表（鳥取）

ダイヤ改正で２２７系の車両が走る。ワンマン線区にワンマン非対応の列列車を導入するのはどういうことのか。

●漆迫分会代表（島根）

島根県分会が発足したが、範囲が広くなりＷＥＢを活用している。顔ぶれも変わり、色々

（裏面に続く）

執行委員長挨拶（要旨）

８日投票の衆議院選では、米子地本推薦候補は議席を得ることが出来なかった。全国的にも自民党の圧勝で終わった。政治の右傾化が非常に懸念をされる中、しっかり総括し次に闘いに備えたい。

何点かについて述べあいさつとする。

本年は伯備線事故から２０年、福知山線事故から２１年目を迎える。事故の記憶と教訓を風化させることなく、日々の職場での取り組みに生かしていかなければならない。

労働力人口の減少を理由に、現場実態を顧みず効率化が進められている。安全はもとより、最低限のサービスさえ提供出来ていない。

安心して働ける職場環境があってこそ安全・安定輸送が提供できる。

減税や社会保障費の削減ではなく、物価高を上回る賃上げこそが王道だ。２１０００円のベア獲得・格差是正に向け２６春闘を精一杯取り組む。

木次線沿線自治体では、廃線への懸念が大きくなっている。ローカル線は地域に必要不可欠なものであり、責任の所在を明らかにさせながら、関係自治体と共に存続に向けた取り組みを強化していく。

自治体選挙も重要な課題だ。国労議員団の植田候補をはじめ、推薦議員の当選に向け奮闘していく。

国労結成から８０年戦後からの日本社会の変遷を見てきたのが国労だ。今年は米子は地区本部へ移行し、中国地方本部が結成となる。

私たちの運動も大きな社会の流れの中にしかなく、さまざまな出来事にも一喜一憂することなくしっかりと地に足を付け、一丸となり奮闘していく。

ご来賓の皆様

米子市議会議員　伊藤ひろえ　様
江津市議会議員　植田好雄　様
国労西日本本部　大北真也　様

な話が聞けるのはいいと思う。役員が休むと組合員が休みを取りにくい。

駅業務部にいるが、今年は雪も多く除雪対応も大変である。浜田から鳥取などへの除雪応援も今後あるかもしれない。山口線のＳＬ対応として、米子・鳥取から来て仕事をしている。工臨対応などで、年休が取れない場面もある。要員増をお願いしたい。

●山田運転協代表

特急のワンマン運転は問題だ。米子運転区と車掌区の統合も、設備的に問題はないのか。統合に伴い係長が△６名、ハイブリット運用など言っているが、運転士しか経験のない係長が車掌の指導が出来るのか。タブレットを使った教育の仕方も個人の責任になるのではないか。

●北村工務協代表

除雪対応などで呼び出しがあるが、基準が明確ではない。翌日の呼び出しについても緊急出動の対象とするべきではないか。職場でもそういう意見は多い。

先日の大雪の時、智頭急行で運行不能が発生した。雪害対応・設備などについて要求を出し交渉してもらいたい。社会人採用の仲間が休職している。総合職で転勤したくないという人もいる。国労への声掛けもしっかり取り組んでいきたい。

西日本本部答弁

保存休暇については、昨年の労働協約交渉で積み立てが３０日となった。少しづつではあるが改善している。保存休暇の積み立てを増やすというのは、年休が取れないことの裏返しでもあり、現場の要員を確保するよう求めていきたい。２６春闘では、シニア社員の精励手当を社員同様の期末手当とするよう求めていく。

コロナ禍における期末手当の削減については、当時抗議もしてきた。取り戻すということは難しいかもしれないが、今後も闘いを強化していきたい。

乗務員のその他業務については、労働時間の７時間１０分に満たない場合に指定するという交渉経過があるが、７時間１０分を超えても「その他業務」を入れられている現実もあることから、所定労働時間に近づけるということで会社と合意をしてきた。

益田駅における椅子や屋根の撤去について、社員として声を上げてもらいたい。

年休が取れないという話も出ていたが、要員不足も深刻だ。新幹線で運転士が運転台を離れるという事象があったが、事象だけで良い・悪いという話ではない。何故、そうしなければならなかったのかが大事である。

業務部長答弁

メンテックでの高齢化の問題、低賃金・仕事の内容など、労働組合としても関心を寄せていきたい。保存休暇の積み立て、使用条件など改善させてきた。今後もより使いやすいものになるよう求めていく。

駅では統括駅化が進められている。業務としてもしっかりと交渉していきたい。シニア社員の一時金の扱い、期末手当となるようしっかりと求めていきたい。

地方本部答弁

引き続き組織の拡大に奮闘してもらいたい。あまり組織の拡大の気持ちを前面に出さず、困っていることや改善してもらいたいことに寄り添い、その取り組みを通じて組織拡大につなげて貰いたい。

書記長集約（要旨）

８名の構成員から発言があった。ＪＲ西日本は５期連続での増収・増益だ。効率化が進む職場での労苦に応えさせる２６春闘にしていく。「物価高を大きく上回る賃上げと労働条件の改善」を勝ち取るため、春闘行動への積極的な参加を要請する。

当面する「ダイヤ改正」「駅の効率化施策」などの団体交渉における要求前進に全力を挙げ取り組む。

中国統括本部内では、毎年の様に待避不良・墜落・転落が発生している。会社の進める「安全なチームづくり」の現状はどうか。自らの職場の点検から改善へとつなげよう。

鉄道利用者・地域住民の声を聴き、沿線自治体との意見交換を継続しながら、ローカル線を守る取り組みを進めていきたい。木次線利用促進にもしっかりと取り組む。

国労方針である「地方本部１名の拡大」に向けた運動を進めていく。働きやすい職場を作るために奮闘する姿勢や一緒に働く仲間を大切にする中で、信頼を勝ち取ることが重要だ。

自治体選挙における推薦候補の当選、そして、平和で民主的な社会の構築に向け、奮闘していく。

低下する日本の労働者の地位！

２月１１日開催の拡大地方委員会に先立ち、元月間労働組合編集長の「松上隆明」氏より、「２６春闘を取り巻く情勢と課題」とのテーマにて、講演を頂きました。国労組合員のみならず、共闘からも参加があり共に２６春闘を闘う決意を固めてきました。

講演では、２６春闘で継続的な賃上げを求める根拠として、沈静化しない物価上昇があり、構造的な人員不足の中「まともな賃金を払えない企業」は、事業にの続さえ困難だと言われています。また、３０年に渡る賃金低下により、国内消費は冷え込み、リストラの要因ともなっています。そして、国際比較でも、日本の賃金は低く、ＯＥＣＤ加盟国の労働者の平均年収で見ると、日本は２５位とかなり低位に位置しています。

１９８０年代の春闘のスローガンが「欧米並みの賃金を」だったそうですが、今まさに１９８０年代まで、日本の労働者の地位は低下しているともいえるのではないでしょうか。

また、連合をはじめ各産別における春闘の動向や、取り組み事例を紹介いただき、その後、今後の春闘の課題について次のように提起をされました。課題の一つは、「格差の是正」です。ＪＡＭ（機械・金属産業の労働組合）の３年間での賃上げをみると１０００人以上の大手の賃上げは３万６７９５円ですが、３００人未満の中小では、１万９０７０円にしかなりません。是正どころか拡大に歯止めが掛かっていません。また、この数年間、初任給含めた若年労働者の賃金が大きく伸びる一方、中堅・ベテラン層の賃金は伸び悩んでいます。つまり、賃金カーブが寝かされています。

ベアをどのように配分していくのか、労働組合の関りも重要な課題だと言われていました。そして、何と言っても「闘争体制」の強化です。「要請」や「請願」ではなく、団結の力で大幅賃上げを！、